印西町から印西市へ
そして、北総の中核都市「新印西市」へ

昭和29年（1954）　印西町誕生

▶印西町誕生の瞬間（12月1日）

合併後、昭和39年まで使われていた役場庁舎（旧大森町役場）

昭和29年12月1日、前年に施行された町村合併促進法により、木下町、大森町、船穂村、永治村の一部が合併し、人口約18,000人、面積53.51㎢の印西町が誕生しました。新町名は、住民から公募し、「印西町」に決定されました。印西町が新町名として選ばれたのは、この地区が印旛郡の西部に当たることから、従来より印西地方と呼ばれ、それが一般に親しみ深い名称であった関係もあり、公募の結果も印西町を希望するものが最も多かったためです。昭和30年代中頃までは、広大な山林・原野が残されていましたが、昭和41年、千葉県によって首都圏の宅地需要の増加に対応するために、千葉ニュータウン計画が立てられました。

平成８年（1996）　印西市誕生

４月１日に市制施行。県内で31番目、全国で666番目の市になりました。

市制施行を記念した行事も行われ、６月には「ＮＨＫのど自慢」、11月には一般公募の合唱団によるベートーベンの交響曲第９番の演奏会が開かれました（ともに東京電機大学福田ホール）。

この年には原小学校の開校、牧の原給食センターの新設、フレンドリープラザ、サザンプラザの２館のコミュニティセンターが開館しています。

開市式（４月１日）

▲第９演奏会（11月24日）

平成18年（2006）　市制施行10周年

▶「10周年を契機とし、安心・安全・活力のあるまちづくりに取り組みたい」と抱負を述べる山﨑市長（11月18日）

多くの市政功労表彰者・来賓を迎え記念式典は執り行われました。

11月18日に市制施行10周年を記念する式典が文化ホールで盛大に執り行われました。市政功労表彰者をはじめ多くの来賓のみなさんが出席する中、木下小学校と大森小学校の児童による合奏でオープニング。式典後、東京電機大学学長の原島文雄氏による記念講演や「インターナショナル・ショパンマイスターピアニステン」の資格を持つ中込多実子さんのピアノコンサートなどが文化ホールで行われました。この年には中央駅前子育て支援センター、小林子育て支援センターのほかにも地域経済の活性化を図るための施設として、いんざい産学連携センターが開館しました。

平成21年（2009）印西市・印旛村・本埜村合併協議会を設置

新合併特例法に基づき千葉県市町村合併推進構想が平成18年12月28日に策定され、印西市、白井市、印旛村および本埜村の２市２村の組み合わせが提示されました。その後、平成20年９月22日に千葉県の呼びかけにより、千葉県市町村合併推進構想の組み合わせである２市２村首長会議を開催しましたが、白井市が前回の住民投票の結果と平成20年11月の市長選挙を理由に、この協議に参加しない旨を表明。平成20年10月に印西市、印旛村および本埜村の１市２村の首長会議を開催し、新合併特例法の期限である平成22年３月末までの合併を目指し話し合いを進めていくことを合意しました。同月24日に印西市・印旛村・本埜村合併問題懇談会を設置し、４回の会議を重ね、法定協議会設置のための規約、予算について協議を行いました。翌年１月９日には、１市２村において、臨時議会を開催し、合併協議会の設置に関する協議の議案、負担金などを計上した補正予算が可決。同日、１市２村の首長会議が開催され印西市・印旛村・本埜村合併協議会が設置されました。

第１回印西市・印旛村・本埜村合併協議会（２月19日）

平成22年２月（2010）合併決定　「新印西市」へ

▶森田知事（最左）に合併申請書を手渡す山﨑印西市長（左から二人目）、佐藤印旛村長、小川本埜村長職務代理者（1月12日）

▶森田知事（本名鈴木栄治）に手渡された合併（廃置分合）の申請書

昨年１月に法定協議会設置後、７月までに10回におよぶ協議会を開催。その結果、合併協定項目に関するすべての協議が整い、同９月に各市村議会で合併関連議案を可決。平成22年１月12日に千葉県知事に合併の申請を行い、２月19日に千葉県定例議会で議決。その後、22日に千葉県庁の知事応接室で、森田健作千葉県知事から山﨑印西市長、佐藤印旛村長、五十嵐本埜村長に「市町村の廃置分合（合併）の決定書」が手渡されました。同日、千葉県知事から総務大臣へ合併の届出がなされました。